

| | |
|--------|----------------|
| 議会受付番号 | 文書質問第11号 |
| 質問者 | 長嶋竜弘議員 |
| 答弁する者 | (経営企画部文化人権推進課) |

文書質問に対する答弁書

鎌倉市議会基本条例第7条第3項の規定に基づく文書質問第11号の質問について、次のとおり答弁いたします。

1 質問の内容

女性の活躍を応援する為に安倍昭恵総理夫人を迎えてのシンポジウム「女性が活躍できるまちかまくら」を、担当課である文化人権推進課長と市民の方と私で一緒になって提案しましたが、「内閣総理大臣夫人とはいえ、特定の政党の代表者の夫人を、市としてお招きすることが、市が特定政党を応援していると捉えかねないと懸念をいただいた」ので実施できないと松尾市長から却下された。

一方で、10月7日、8日に『日本とイタリアで推進する文化交流事業』としてオペラ「ジャパン・オルフェオ」が鶴岡八幡宮で開催された。この企画は安倍昭恵総理夫人が実行委員長をされており、鎌倉市が後援を出している他、高德院大仏、財団法人鎌倉市芸術文化振興財団、鎌倉商工会議所、公益社団法人鎌倉市観光協会、鎌倉市教育委員会が後援を出している。また松尾市長が実行委員に名前を連ねている他、黒岩祐治・神奈川県知事、久保田陽彦・豊島屋社長、佐藤美智子・高德院大仏、鎌倉ユネスコ協会会長、吉田茂穂・鶴岡八幡宮宮司、他財界の名だたる方々が名前を連ねている。そして、チケットはSS席23,000円と大変高額な興業である。

女性の活躍を応援する為の企画の総理夫人は単なるゲストで来て頂くだけなのに、特定政党を応援している事とされた。しかしこのオペラは総理夫人は実行委員長ですし、日本のここを大切にす党代表中山恭子参議院議員も松尾市長と同列の委員ですので、極めて政治的で、特定政党を応援している事になると思うが、どのような見解をお持ちかお伺したい。

一方は断り、一方は市長自ら委員になり企画に参加した今回の判断は、市民の思いを形にした女性の活躍を応援する企画を軽視した、大変不公平な松尾市長の判断であり、到底納得できるものではない。

市長として公平な判断ではなかったと考えるがどのような認識をお持ちか、またどうしたら「特定政党を応援している」と捉えられるのか、政治的ポリシーの判断基準はどこにあるのか、明確なお答えをお願いいたします。

2 質問の理由

松尾市長の不公平な判断と、浅慮な政治的ポリシーは納得できないので。

3 答弁

ご質問のとおり、10月7日、8日に鶴岡八幡宮で開催されました日伊修好150周年記念オペラ『ジャパン・オルフェオ』は鎌倉市の後援名義の使用を承認しております。特定非営利活動法人友情の架け橋音楽国際親善協会が主催するこの行事は、日本とイタリアの外交関係樹立を記念した文化交流事業で、両国の伝統芸術を融合した革新的な協同芸能であり、市民の文化振興に資するものと考え、鎌倉市共催等承認基準にも適合していることから、後援を承認する判断を行ったものです。

また、実行委員会に市長が参加していることに対するご質問ですが、この発起人会（実行委員会）へは、その趣旨に賛同し、個人として参加しているもので、市として参加（主催・共催）しているものではありません。

私の政治的ポリシーについてですが、文書質問第9号でご質問いただいた事案は、市が主催する事業についてであることに対し、今回のご質問は、私個人としての対応と対象が異なるもので、その判断に不公平はないものと考えています。いずれにしましても、市が主催する事業においては、公平性を十分に配慮し、慎重に検討を行うことを心がけております。